

卒業論文

GDPと豊かさの関係の考察

063069 黒田丈博

# 目次

はじめに.....	2
第一章 GDPと豊かさ.....	2
● GDPの定義.....	2
● GDPの歴史.....	2
● GDPの問題点.....	2
● 豊かさの定義.....	3
第二章 順位比較.....	5
● GDPの順位と豊かさ総合指標の順位比較.....	5
● GDPの順位と経済的な指標の順位比較.....	6
● 豊かさと一人当たりGDP.....	8
第三章 回帰分析.....	9
● 豊かさ指標と名目GDP.....	9
● 豊かさ指標と国民一人当たりのGDP.....	10
● 疑問点と仮説.....	11
● 仮説検証.....	12
● GDP成長率と豊かさ指標.....	13
● まとめと問題点.....	14
終わりに.....	15
参考文献.....	16

## はじめに

100年に一度の経済不況により、様々な国がGDPマイナス成長となり、経済不安を煽ってきた。我が国でもそれは例外ではなく、2009年度のGDP成長率の見通しは、マイナス6%台であるなど、経済状況は厳しいものとなっている。さらに、将来の人口減少が見込まれている日本にとって、GDPを成長させ続けるというのは簡単なことではない。そこで、人々が豊かであり続けるためには、GDPの成長は必要なのか検証していきたいと考えた。また、GDPの大きな国ばかりに注目がいつているが、GDPが大きな国とは本当に豊かなのかも検証していく。

### 第一章 GDPと豊かさ

#### ● GDPの定義

まず始めに、GDPとはなにか？ということを確認しておく。「GDPとは国内総生産（gross domestic product）の略語であり、一国経済のすべての居住者によって生産された財貨・サービスから居住者による中間消費を控除した総額をいう。総付加価値（gross value added）ともいう。」というのが定義であり、原則としてGDPには市場で取引された財やサービスの生産のみが計上される。このため、家事労働やボランティア活動などは国内総生産には計上されない。

#### ● GDPの歴史

GDPという指標が広く使われるようになったのは、1993年にGDPの母胎となる概念機構である、SNA（国民経済計算）が93SNAと呼ばれる、新たな勘定システムを導入することになり、それまで使用されていたGNPからGDPへと移行されることとなったからである。概念機構であるSNAは1940年代から今日まで半世紀以上にわたり国際連合等の手によって開発されてきた。

#### ● GDPの問題点

このようにしてGDPは現在世界中でその国の経済活動を調べる指標として幅広く活用されているが、経済活動の量を単純に計算し環境悪化など経済的外部効果や生活の質を反映できないという指摘も受けてきた。

サルコジ仏大統領は、金融危機から1年を迎えパリのソルボンヌ大学で演説し、「現在のGDPは実際の経済発展レベルを示せないごまかしの指標にすぎず、新たな道具が必要だ」と主張している。(中央日報より引用) また、ブータンでは、GDPのかわりに、国民総幸福という指標を使っている。経済は、国民の幸せに直結しないことを、彼らは知っているのである。だから、政治は、国民の高い幸福度を直接目指し、国民中心の開発を進める。その結果、ホームレスはいないと言われている。(朝日新聞より引用) といったように、GDPではその国の豊かさを図ることができないという指摘もある。

### ● 豊かさの定義

さきほどからなにげなく使われている、「豊かさ」という言葉だが、定義があいまいであり、判断が主観に任されてしまうため、この論文における「豊かさ」の定義づけを行いたい。

図 1.

名目GDPランキング 2008年度			
1位	アメリカ	11位	カナダ
2位	日本	12位	インド
3位	中国	13位	メキシコ
4位	ドイツ	14位	オーストラリア
5位	フランス	15位	韓国
6位	イギリス	16位	オランダ
7位	イタリア	17位	トルコ
8位	ロシア	18位	ポーランド
9位	スペイン	19位	インドネシア
10位	ブラジル	20位	ベルギー

出所 ; IMF World Economic Outlook Databases

図 1 は 2008 年度の名目GDPランキングである。仮にGDPがその国の人々の精神的な満足度まで推し量ることができるとするならば、人々の精神的な満足度はこの図 1 の順位に近いものになるはずである。

図 2.

国民の幸福ランキング 2008			
1位	デンマーク	11位	エルサルバドル
2位	プエルトリコ	12位	マルタ
3位	コロンビア	13位	ルクセンブルク
4位	アイスランド	14位	スウェーデン
5位	北アイルランド	15位	ニュージーランド
6位	アイルランド	16位	アメリカ
7位	スイス	17位	グアテマラ
8位	オランダ	18位	メキシコ
9位	カナダ	19位	ノルウェー
10位	オーストリア	20位	ベルギー

出所；ワールド・バリューズ・サーベイ

図 2 は国民の幸福ランキングの 2008 年度のものである。国民の幸福ランキングとは、世界 52 カ国の 35 万人を対象に「いま自分が幸せか」「自分の最近の生活にどの程度満足しているか」という 2 つの質問を行ったものである。この指標を国民の精神的な満足度を図る目安とすると、GDP のランキングとはとても関連性のあるものとは思えない。

しかし、このランキングの中には情勢不安の発展途上国なども含まれており、その国の国民性が多く反映されているようにも思われる。そこでこの論文においては、客観的に判断して、経済的にも、精神的にも高い水準であってこそ、真の豊かな国であると定義する。

この論文において豊かさの基準となるものは、OECD30 カ国の豊かさを比較した「国民の豊かさの国際比較」であるとする。OECD や世界銀行の資料から 56 の指標を選び（※2）、これらの指標を健康、環境、労働経済、教育、文明、マクロ経済の 6 つに分類し、各指標の偏差値を豊かさ総合指標として順位づけを行ったものである。この指標を用いて、GDP との関係性を検証していく。

(※1) 指標の詳細は以下のとおり

カテゴリー指標	個別指標
1.健康指標	平均寿命 医師数 看護師数 病院ベット数 乳児死亡者数 死亡者数 健康支出 公的健康支出
2.環境指標	CO2 排出量 エネルギー原単位 国際観光収入 真の貯蓄 淡水資源 水質汚染物質排出量 耕作地 森林面積比率 自治体ゴミ処理量
3.労働経済指標	失業率 長期失業率 雇用者報酬 GDP 労働生産性 技術者・研究者数 上場企業数 社会福祉支出 単位労働コスト

カテゴリー指標	個別指標
4.教育指標	15歳生徒の読解力 15歳生徒の科学力 国民の高学歴率 教育支出 公的教育支出 特許取得数 科学技術雑誌論文数 生徒・教師比率 公的高等教育支出
5.文明指標	自動車数 電力消費 携帯電話数 パーソナル・コンピューター数 インターネット・ユーザー数 日刊紙数 ハイテク製品輸出 テレビ台数 情報通信支出 交通事故死
6.マクロ経済指標	GDP デフレーター上昇率 経済成長率 資本形成 輸出額 輸入額 総国際準備 国内総貯蓄 研究開発費 家計最終消費支出 財政バランス 政府累積債務 政府開発援助

## 第2章 順位比較

### ● GDPの順位と豊かさ総合指標の順位比較

ここからは先述した豊かさ総合指標を用いて、GDPとの順位との整合性を見ていきたい。まず比較しやすいように、GDPの順位をOECD内の上位20カ国に書き換えたものが図3.である。

図3.

名目GDPランキング 2008年度(OECD内)			
1位	アメリカ	11位	韓国
2位	日本	12位	オランダ
3位	ドイツ	13位	トルコ
4位	フランス	14位	ポーランド
5位	イギリス	15位	ベルギー
6位	イタリア	16位	スイス
7位	スペイン	17位	スウェーデン
8位	カナダ	18位	ノルウェー
9位	メキシコ	19位	オーストリア
10位	オーストラリア	20位	ギリシャ

出所；IMF World Economic Outlook Databases

上位20カ国を地域別に見ると、ヨーロッパが13、アジアが2、北米が2、その他が3とヨーロッパが多い（OECDは約3分の2がヨーロッパなので当たり前ではあるが…）これをふまえて、豊かさ指標の上位20カ国を見てみる。

図4.

豊かさ総合指標 2008年版			
1位	ルクセンブルグ	11位	アイルランド
2位	ノルウェー	12位	アメリカ
3位	スウェーデン	13位	オランダ
4位	スイス	14位	ニュージーランド
5位	フィンランド	15位	アイスランド
6位	オーストリア	16位	イギリス
7位	日本	17位	ベルギー
8位	カナダ	18位	フランス
9位	デンマーク	19位	ドイツ
10位	オーストラリア	20位	韓国

出所；財団法人 社会経済生産性本部

図 3.と比べてみると、明らかな違いがある。まず、GDP の上位 20 カ国に入っていなかった、ルクセンブルグとノルウェーが 1, 2 位となり、GDP の上位 10 カ国で豊かさ指標の上位 10 カ国に入っているのは、日本、カナダ、オーストラリアだけである。また地域別に見ると、ヨーロッパが 14 カ国になっているが、そのうちの 7 カ国が GDP では上位に入っていなかった国である。アジア、北米は変わらないが、オセアニアが増えている。

### ● GDP の順位と、経済的な指標の順位比較

次に豊かさ総合指標の中で、経済に関連する分野の労働経済指標の順位と、マクロ経済指標（※2）の順位を GDP の順位と比較する。2 つの指標の順位は以下の通り。

#### ※2

「失業率」「長期失業率（12ヶ月以上の失業者の全失業者に占める割合）」「雇  
用者報酬」「GDP 労働生産性(付加価値労働生産性)」「人口100万人当  
たりの技術者・研究者数」「労働力人口10万人当たりの上場企業数」「国民1  
人当たり社会福祉支出」「単位労働コスト(生産物1単位を生産するのに必要な賃  
金)の上昇（低下）率」の8指標で構成されている。

#### ※3

「1995～2005年平均GDPデフレータ上昇率」「1995～2005年平均経済成長  
率」「国民1人当たり資本形成」「国民1人当たり輸出額」「国民1人当たり輸  
入額」「国民1人当たり総国際準備」「国民1人当たり国内総貯蓄」「国民1  
人当たり研究開発費」「国民1人当たり家計最終消費支出」「対GDP比財政バラ  
ンス」「国民1人当たり政府累積債務」「国民1人当たり政府開発援助」の1  
2の指標から構成されている。



図 4.

労働経済指標 2008 年版			
1位	ルクセンブルグ	11位	スイス
2位	アメリカ	12位	オーストラリア
3位	ノルウェー	13位	イギリス
4位	アイスランド	14位	アイルランド
5位	スウェーデン	15位	オランダ
6位	フィンランド	16位	フランス
7位	オーストリア	17位	ベルギー
8位	デンマーク	18位	スペイン
9位	日本	19位	ニュージーランド
10位	カナダ	20位	韓国

出所；財団法人 社会経済生産性本部

図 5.

マクロ経済指標 2008 年版			
1位	ルクセンブルグ	11位	韓国
2位	ノルウェー	12位	アメリカ
3位	アイルランド	13位	オーストリア
4位	アイスランド	14位	カナダ
5位	デンマーク	15位	ベルギー
6位	スイス	16位	スペイン
7位	スウェーデン	17位	ニュージーランド
8位	フィンランド	18位	イギリス
9位	オーストラリア	19位	ドイツ
10位	オランダ	20位	フランス

出所；財団法人 社会経済生産性本部

順位を比較すると、経済的な指標でさえGDPとの順位の整合性がないことが分かる。両者とも1位のルクセンブルグはGDPの順位は70位である。また、ルクセンブルグ、ノルウェー、フィンランド、デンマーク、アイルランド、アイスランド、オランダの7カ国はGDPの順位では上位20カ国に入っていないが、豊かさ総合指標、労働経済指標、マクロ経済指標と、どれも上位20カ国に入っている。

● 豊かさと一人当たりGDP

以上から国のGDPの規模というものは、その国の経済状況には関係がなく、また総合的な豊かさにも関与しているわけでないといえそうである。しかし、国民一人当たりのGDP順位と、豊かさ指標のGDPの順位を比べてみると、結果はまた違ってくる。

図6.

一人当たりの名目GDP 2008年度(OECD内)			
1位	ルクセンブルグ	11位	アメリカ
2位	ノルウェー	12位	ベルギー
3位	スイス	13位	オーストラリア
4位	デンマーク	14位	フランス
5位	アイルランド	15位	カナダ
6位	アイスランド	16位	ドイツ
7位	オランダ	17位	イギリス
8位	スウェーデン	18位	イタリア
9位	フィンランド	19位	日本
10位	オーストリア	20位	スペイン

出所 ; IMF World Economic Outlook Databases

豊かさ指標と比べてみると、1位、2位と同一である。さらにGDPの順位では上位20カ国に入っていないが、豊かさ総合指標、労働経済指標、マクロ経済指標と、どれも上位20カ国に入っていた7カ国が、こちらにも入っていることなどから、順位に多少変動があるものの、豊かさ指標と関連があると考えてもよさそうである。第3章では、回帰分析を用いて豊かさ指標とGDPの関係性を解明していく。

### 第3章 回帰分析結果

#### ●豊かさ指標と名目GDP

2008年度の豊かさ指標のデータをもとに、Excelの分析ツールを用いて、回帰分析を行う。各国の豊かさ指標の数値と、GDPの数値は以下の通りである。

図7.

	名目GDP(10億USD)	豊かさ指標		名目GDP	豊かさ指標
ルクセンブルグ	42.59	65.47	イギリス	2,442.95	50.65
ノルウェー	336.73	62.53	ベルギー	400.3	50.55
スウェーデン	393.15	60.02	フランス	2,270.35	50.44
スイス	391.23	58.52	ドイツ	2,919.51	50.37
フィンランド	209.71	56.22	韓国	951.77	48.68
オーストリア	321.65	55.85	スペイン	1,235.92	47.58
日本	4,362.58	54.67	イタリア	1,865.11	45.91
カナダ	1,277.56	54.4	チェコ	142.61	44.42
デンマーク	273.87	54.29	ギリシャ	267.71	44.2
オーストラリア	755.2	53.13	ポルトガル	195.19	42.88
アイルランド	221.95	53.06	ハンガリー	113.01	41.96
アメリカ	13,398.93	53.02	スロバキア	56	40.41
オランダ	678.32	52.81	ポーランド	341.67	39
ニュージーランド	106.11	51.59	メキシコ	952.34	34.31
アイスランド	16.65	51.01	トルコ	529.19	32.07

出所；IMF World Economic Outlook Databases、財団法人 社会経済生産性本部

従属変数に豊かさ指標の値をとり、独立変数に名目GDPの値をとる。なお、2008年度の豊かさ指数のデータは、2006年度のデータをもとに測定されているため、GDPは2006年のデータを使用する。以後データは全て2006年度のものである。回帰分析の結果は以下のとおりである。

			補正R2	係数	t値	p値
Y	豊かさ指標	切片		48.995923	31.9186833	5.60225E-23
X	名目GDP	X	-0.020143	0.0003652	0.6686837	0.509374446

「補正 R2」とは自由度修正済み決定係数と呼ばれるもので、説明変数の数を調整した場合の係数である。「係数」はそれぞれの変数が 1 単位増加した時の増加分を表している。「t 値」は [係数パラメータ=0] という検定統計量の値で、有意水準が 5% の時は絶対値 2 を超えているなら帰無仮説が棄却されると考える。「p 値」とは求めた t 値よりも検定統計量が大きくなる確率の大きさを、有意水準 5% の時は、0.05 よりも小さいなら帰無仮説 [係数パラメータ=0] は棄却される。

図より t 値が 0.668、p 値が 0.509 と、それぞれ有意な水準を満たさず、名目 GDP は豊かさ指標に影響を与えないといえる。つまり GDP の規模を見ただけでは、国の豊かさを推し量ることはできないのである。

### ● 豊かさ指標と国民一人当たりの GDP

次に、国民一人当たりの GDP と豊かさ指標の相関関係を見てみる。数値と回帰分析結果は以下の通り。

図 8.

	一人当たりの名目 GDP (USD)	豊かさ指標			
ルクセンブルグ	90,105.72	65.47	イギリス	40,321.35	50.65
ノルウェー	72,076.42	62.53	ベルギー	37,818.09	50.55
スウェーデン	43,294.16	60.02	フランス	36,865.20	50.44
スイス	53,690.94	58.52	ドイツ	35,467.55	50.37
フィンランド	39,820.34	56.22	韓国	19,706.59	48.68
オーストリア	38,926.45	55.85	スペイン	28,030.14	47.58
日本	34,150.33	54.67	イタリア	31,917.58	45.91
カナダ	39,270.25	54.4	チェコ	13,892.90	44.42
デンマーク	50,459.64	54.29	ギリシア	24,146.54	44.2
オーストラリア	36,179.60	53.13	ポルトガル	18,466.73	42.88
アイルランド	52,348.56	53.06	ハンガリー	11,214.69	41.96
アメリカ	44,857.42	53.02	スロバキア	10,381.96	40.41
オランダ	41,497.70	52.81	ポーランド	8,958.02	39
ニュージーランド	25,310.23	51.59	メキシコ	9,082.26	34.31
アイスランド	54,101.51	51.01	トルコ	7,766.97	32.07

出所 ; IMF World Economic Outlook Databases、財団法人 社会経済生産性本部

			補正R2	係数	t値	p 値
Y	豊かさ指標	切片		37.39926	26.44052258	2.40059E-21
X	一人当たりの名目GDP	X	0.776839	0.00036	10.09707736	7.77289E-11

t 値、p 値とも基準となる数値を大きくこえ、強い相関関係にあることが確認できる。以上より国民一人当たりの GDP を見ることで、その国の豊かさを推し量ることは可能であり、国民一人当たりの GDP を成長させることで、より豊かになるといえる。回帰分析結果によれば一人当たりの名目 GDP が 1 万 US ドル増えると、3.6 ポイント豊かさ指標が上昇する。

#### ● 疑問点と仮説

以上の結果より、国民一人当たりの GDP と豊かさ指標は高い相関関係にあるため、より豊かであるためには国民一人当たりの GDP が成長しなければならないことがわかった。しかし、なぜ名目 GDP と豊かさ指標の間には相関関係が見られなかったのでしょうか？国民一人当たりの GDP を成長させるということは、国の GDP そのものを成長させることにつながるはずである。それなのに、国全体の GDP と豊かさ指標の間には少しも相関関係がみられなかった。

おそらくこれは、GDP が「国民一人当たりの GDP × 人口」であらわされる点に関連しているのではないかと。つまり、GDP が国民一人当たりの GDP の増加によって、上昇した場合は豊かさ指標も上昇するが、人口の増加によって上昇した場合、豊かさ指標は下降するのではないかと。そのため、二つの相反する因子が GDP に存在するために、豊かさ指標との相関関係がなくなっているのではないかと考えた。

● 仮説検証

図 9.

	人口(100万)	豊かさ指標		人口	豊かさ指標
ルクセンブルグ	0.47	65.47	イギリス	60.59	50.65
ノルウェー	4.67	62.53	ベルギー	10.59	50.55
スウェーデン	9.08	60.02	フランス	61.59	50.44
スイス	7.29	58.52	ドイツ	82.32	50.37
フィンランド	5.27	56.22	韓国	48.3	48.68
オーストリア	8.26	55.85	スペイン	44.09	47.58
日本	127.75	54.67	イタリア	58.44	45.91
カナダ	32.53	54.4	チェコ	10.27	44.42
デンマーク	5.43	54.29	ギリシア	11.09	44.2
オーストラリア	20.87	53.13	ポルトガル	10.57	42.88
アイルランド	4.24	53.06	ハンガリー	10.08	41.96
米国	298.7	53.02	スロバキア	5.39	40.41
オランダ	16.35	52.81	ポーランド	38.14	39
ニュージーランド	4.19	51.59	メキシコ	104.86	34.31
アイスランド	0.31	51.01	トルコ	68.13	32.07

出所 ; IMF World Economic Outlook Databases、財団法人 社会経済生産性本部

図 9.は人口と豊かさ指標の数値である。従属変数に豊かさ指標の値をとり、独立変数に人口の値をとる。この2数を回帰分析にかけた結果このような結果になった。

			補正R2	係数	t値	p 値
Y	豊かさ指標	切片		50.70189	29.65363	1.08E-22
X	人口(100万人)	X	-0.01602	-0.01798	-0.73677	0.467389

仮説の結果どおり X の値の係数はマイナスとなったが、t 値、p 値とも有意な水準を満たしていない。人口と豊かさ指標には相関関係は見られなかった。

仮説の結果どおりにはいかなかったが、人口と豊かさ指標に相関関係が見られなかったことが、GDP と豊かさ指標に相関関係がみられなかったことの理

由だと考えられる。

● GDP成長率と豊かさ指標

これまでの結果から、国民一人当たりのGDPをあげると、豊かさも増加するということが分かった。そして、前述したとおり、国民一人当たりのGDPを成長させるということは、国のGDPそのものを成長させることにつながる。つまりGDP成長率につながるのである。そこで、今度はGDP成長率と、豊かさ指標の上昇度の相関関係を調べることによって、GDP成長率と豊かさの関係を調べる。

経済成長率と豊かさ指標の上昇度は以下のとおりである。

図 10.

	経済成長率 2006 年度	豊かさ指標の上昇 値 2007~2008		経済成長率 2006 年度	豊かさ指標の上昇 値 2007~2008
ルクセンブルグ	6.44	1.16	イギリス	2.85	-0.93
ノルウェー	2.28	0.37	ベルギー	3.02	0.21
スウェーデン	4.25	-0.62	フランス	2.42	0.21
スイス	3.63	-0.5	ドイツ	3.18	0.42
フィンランド	4.92	0.09	韓国	5.18	0.06
オーストリア	3.46	-0.14	スペイン	4.02	-0.36
日本	2.04	-0.21	イタリア	2.04	-0.99
カナダ	2.85	-0.22	チェコ	6.81	0.37
デンマーク	3.34	-0.09	ギリシア	4.5	1.2
オーストラリア	2.84	-0.05	ポルトガル	1.37	-0.07
アイルランド	5.36	0.12	ハンガリー	3.89	0
米国	2.67	0.11	スロバキア	8.5	0.67
オランダ	3.39	0.3	ポーランド	6.23	0.47
ニュージーランド	1.95	-0.59	メキシコ	5.13	-0.48
アイスランド	4.35	-0.61	トルコ	6.89	0.11

出所 ; IMF World Economic Outlook Databases、財団法人 社会経済生産性本部

従属変数に豊かさ指標の値をとり、独立変数に経済成長率の値をとる。  
回帰分析の結果は以下のとおりである。

			補正R2	係数	t値	p 値
Y	豊かさ指標 上昇度	切片		-0.549050582	-2.4979195	0.01863972
X	経済成長 率	X	0.180137877	0.137575271	2.71510611	0.011218518

表より t 値 2.7、p 値 0.011 と有意な水準を満たしている。経済成長率と豊かさ指標の上昇度の間には相関関係があることが分かる。よって仮説どおり経済成長率が高くなれば豊かさ指標も高くなるといえるのである。しかし、Xの係数は0.18なので、回帰分析の結果によると、経済成長率が1%増えても、豊かさ指数の上昇度は0.18しか増えない、ということになる。日本を例にあげてみると、一つ上の順位のオーストラリアとは、豊かさ指標では1.18の差があるので、経済成長率が約7%増えないとおいつけない、というのが回帰分析での結果である。

### ● まとめと問題点

研究の結果以下のことが分かった。

- ・ 国の GDP の規模ではその国の総合的な豊かさを推し図ることはできないが、一人当たりの GDP を見ることによって、その国の総合的な豊かさを推し量ることができる。
- ・ 豊かさを上げる要因の一つに GDP の成長をあげることができるが、経済成長率1%の増加につき、豊かさはあまり上昇しない。

ということである。この論文の冒頭の疑問点を考えてみると、まず国の GDP の規模では総合的な豊かさを推し量ることができないため、GDP が大きな国だからといって、豊かであるとは限らないといえる。また、GDP 成長率はたしかに豊かさを成長させる要素ではあるが、重要度が低いため、必ず必要とはいいきれない。ただし、GDP の成長が、人口の成長によるものではなく、国民一人当たりの GDP の成長によるものであった場合は、豊かさに大きく影響を及ぼす。つまり、重要なのは GDP の規模の成長ではなく、一人当たりの GDP の成長である、ということが分かった。



研究結果ではこのような結論にいたったが、最後にこの論文の問題点について触れておく。

- ① 1人当りのGDPを比べるにあたって関係国の通貨交換比率が適切でないこと
- ② GDPが直接的に豊かさ指標に影響を与えているのか確認できないこと。
- ③ 豊かさ指標を構成している指標にGDPに関係するものが多いこと。

などがあげられるが、豊かさを図る尺度を、豊かさ指標の数値であると定め、それが一人当たりのGDPとの関係性が深いと判断し、一人当たりのGDPの成長が重要であると結論づけたこの論文においては、深く扱わないこととする。

## 終わりに

将来の人口減少が見込まれている日本は今、出生率を上げるために様々な政策に取り組んでいる。しかし、人口の上昇によるGDPの増加は、豊かさに直接影響しないのである。世界でも高い人口密度であるこの国において、人口を増加させ続けるというのは不可能である。もちろん少子化対策が無駄であるとは言わないが、人口減少に差し掛かっている今だからこそ、技術の向上、発展などに目をむけて、一人あたりのGDPを増やしていく政策が必要なのではと考える。

(参考文献)

・ 中央日報 2009.09.16

<http://japanese.joins.com/article/article.php?aid=120583&servcode=A00>

・ asahi.com 2006.11.02

<http://www.asahi.com/business/column/OSK200611020015.html>

・ 外務省「各国・地域情勢」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

・ I M F 「World Economic Outlook Databases」

<http://www.imf.org/external/ns/cs.aspx?id=28>

・ 財団法人日本生産性本部「国民の豊かさの国際比較 2008年版」

<http://activity.jpc-net.jp/detail/01.data/activity000890.html>

・ 武野秀樹 (2004) 『GDP とは何か』 中央経済社